

他人の不幸に触れるのが嫌で、私は長い間、中也を避けて来たが、あるとき中也の詩に曲をつけてみた。

その後中也は、生きることに不安を持ち続けながら生きて来た私に確かな力を与えてくれたのだった。

作曲と絵画による

飴屋善敏展

“光と陰” 中原中也の世界

2010年11月27日(土)~12月10日(金)

平日 10:00~18:00

土曜日 10:00~15:00

日曜日 休館

ろうきんアートギャラリー

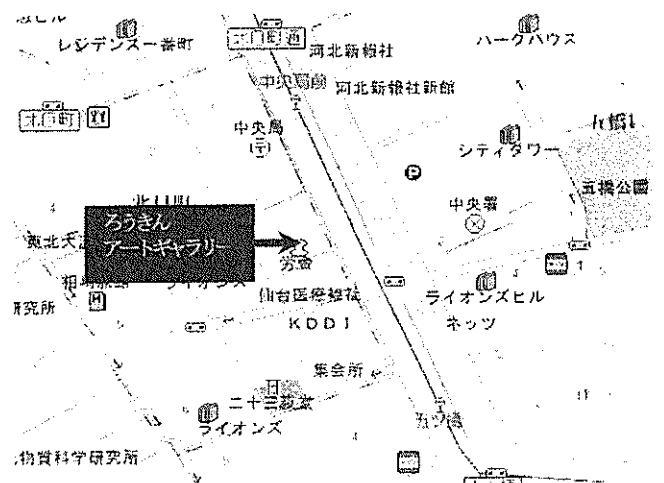
仙台市青葉区北目町1-15

(仙台中央郵便局南側 Aceビル1F)

NPO 法人 創る村 東松島市新東名 4-6-1

0225-88-3793

(会期中連絡先) 090-7521-0110



作者プロフィール

あめやよしとし
飴屋 善敏

昭和7年(1932)9月 岩手県一関市生まれ

宮城県塩釜高等学校 卒業

ベルカント唱法をイタリアのアリゴ・ポーラ氏に、指揮法をドイツのハンス・ヨワヒム・コロロイター氏に、ウィーン演奏法をヨゼフ・モルナール氏に師事。

元宮城教育大学教授「身体表現(演奏法)の研究」。

作品「夢」(書)は、シャジャ・アラブ首長国連邦スルタン・シャイク王のコレクションに收藏されている。

なかはらちゅうや
中原 中也

明治40年(1907)4月 山口市湯田温泉生まれ

文学に耽って中学を落第。

文学を志して京都、東京へと移り、詩人として生活を送る。『四季』『歷程』『文学界』などの雑誌に詩を発表。生前唯一の詩集『山羊の歌』と、没後刊行された詩集『在りし日の歌』があり、ランボーほかフランス詩の翻訳も手がけた。

山口への帰郷を望みながらも30歳で鎌倉にて死去。魂に響く詩を数多く書き残した。近代詩人として文学史上に名を刻み、幅広い年代層に支持を得ている。

飴屋先生がつくった歌曲と絵画のコラボレーションにより、中原中也の世界を体感していただけます。

2010年11月13日から23日まで、中本誠司現代美術館にて開催いたしました、音楽と絵画で綴る中原中也の世界「光と陰」展では、中也の詩に飴屋善敏氏が作曲致しました歌曲を、ソプラノとバリトン、テノールの生演奏でお聴きいただきながら、絵画を鑑賞していただくという新しい試みによる展覧会を行いました。

また、絵画を御覧頂いた後でリクエストを頂戴し、印象に残った絵を再び御覧になりながら演奏を聴いていただくということも行いました。

「汚れつちまつた悲しみに…」をはじめ、中也の詩が飴屋先生の音楽と絵画によって、「印象がまるっきり変わった。」

「暗いと決め付けていた中也だが、本当はこのように明るいということを教えていただいた。」

「この絵画たちを自分の身近に是非置きたい。」などの感想を頂きました。

実際に、譲り受けご自宅に掛けて毎日眺めてくださっている方々もいらっしゃいます。

是非、皆様も中也の「光と陰」を体感なさってみてください。

今回のろうきんアートギャラリーでは、作家や担当者等が常駐いたしませんので、飴屋先生のお話をお聞きになりたい方や絵画の説明等をご希望の方は、下記へ是非ご連絡の上ご来場いただきたく存じます。(また、連絡は会期専用携帯電話090-7521-0110でも結構です。)

主催：NPO法人 創る村



宮城県東松島市新東名4丁目6-1

TEL 0225-88-3793

FAX 0225-88-4118